

令和7年 6月 30日

## 2024年度授業アンケートの評価について

アンケートの結果、1学期では調査対象43科目中40科目（93%）、2学期では40科目中35科目（87.5%）から回答が得られた。回答率は、1学期が31.9%、2学期が25.6%であり、いずれも例年並みの水準であった。2022年からWEB入力による実施形態に切り替えられたアンケート集計も、数年の運用を経て安定してきたと言える。ただし、授業効果をより正確に分析するためには、今後も回答率向上に向けた取り組みが求められる。

2024年度は、ここ数年のデータと比較して、学生の授業への積極的かつ自主的な参加姿勢を反映した授業評価指標が全体的に高い傾向を示した。例えば、「授業内容の難易度が適切である（設問4）」と回答した学生の割合は、1学期で74.5%、2学期では84.7%に達した。また、「教員が学生の参加を効果的に促した（設問8）」、「授業に全体として満足した（設問15）」といった項目では、特に2学期において「強くそう思う」と回答した学生の割合が顕著に増加した。このことから、前期・後期を通じて、学生の主体的な参加を引き出す講義が実施されていたと評価できる。

「授業への出席率（設問11）」においても、9割以上の学生が授業に80%以上出席したと回答しており、「ほぼ100%」の出席とした学生の割合は、それぞれ74.2%、68.2%と、前年度を上回る水準であった。さらに、「授業による知的刺激・さらなる学習意欲の喚起（設問14）」、「研究者としての成長への寄与（設問19）」に対しても、「そう思う・強くそう思う」とする回答が90%以上を占めた。これらの結果から、質の高い教育が学生の学習意欲や満足度向上に貢献していると考えられる。

以上から、本学院の授業運営は堅調に行われていると評価できる。今後もこの好ましい傾向を維持しつつ、本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成に向け、さらなる教育の質の向上を図っていく所存である。

北海道大学大学院環境科学院  
学院長・教務委員会委員長・教授 谷本 陽一  
執行部室・特任助教 三浦 彩